

ミズベリング勉強会(8) 水辺でビジネスを作る人を増やす

日時:平成31年6月20日(木)13:15~17:15
場所:さいたま市さいたま新都心合同庁舎2号館大研修室5A
参加者:34団体65人(民間10、大学4、自治体9、国等11)

1. 関東のミズベリング・プロジェクト

【関東地方整備局河川環境課課長補佐 黒沼尚史】

2. 日本政策金融公庫の人材育成の取り組み

【日本政策金融公庫 創業支援部 ベンチャー支援グループ 濱田健志】

3. 大好きなことを仕事にしたい!

【株式会社Recno代表取締役 望月まい】

4. 大学生観光まちづくりコンテスト

【JTB 営業課 観光開発プロデューサー中島浩史】

5. 大学生観光まちづくりコンテスト多摩川ステージ2017

【東京国際大学COC室指導教員 宮口直人】

6. RiverCycRingProjectへの期待

【関東地方整備局 河川部長 佐藤寿延】

6.5 TABIRINの紹介

【パシフィックコンサルタンツ(株) 社会イノベーション事業本部交通政策室長 神尾敬】

7. パネルディスカッション

基調講演:「水辺の様な公共空間を使って稼ぐ」

講演・コーディネーター:

法政大学現代福祉学部・人間社会研究科教授 保井 美樹

テーマ:「可能性を創造する人材を増やすには」



・お年玉で起業すれば、失敗しても困らないと考えた。高校生に社会は優しかった。

→30代で起業したときは社会はとっても厳しかった。

・あるべき姿と現実のギャップがビジネスのチャンス

→今まで水辺でビジネスは考えなかった。

・イノベーションしていくのは若い人。やりたいことを実現する手段として起業がある。

・行政・大企業はしっかりした成果が求められイノベーションは起きない。

・水辺の様な公共空間で稼ぐ機会が多くなったが、可能性は感じられるか?

→水辺は落ち着いた広い空間のオシャレなイメージ。

→誰がどんな想いで作ったのか重視する感じ。

→起業は手段。ちっちゃく始めて成果を出すという考え方が役立つ

→川辺の活用は、ビジネスチャンス。ちょっとしたブランディングが役立つ

→行政の動きを知る機会。コンテスト後の交流も可能性を広げる。

・観光としてのサイクリングは、ヨーロッパはサイクリングルートを楽しみ、日本は観光スポットを回って終わる感じ。

・サイクリストへのアンケートでは、男性は公衆トイレ、女性はカフェやお土産屋さんの有無に関心高かった。

・行政としては難しいサイクリング。サイクリストとしては県境が楽しいが、行政が持っている課題となっている。

・ユーザーのニーズに合わせるべき(充電スポットだけでも繋がる)

・サイクリングでは、「シェアリング」がどんどん重要なキーワードになって来ている。



パネル参加↓
東京国際大学
山岡勇輝学生

